

生之希望与死之绝望 PDF转换可能丢失图片或格式，建议阅读原文

https://www.100test.com/kao_ti2020/251/2021_2022__E7_94_9F_E4_B9_8B_E5_B8_8C_E6_c105_251848.htm ビルの地下室に、うめき声と血のにおいが充していた。原爆でしたの夜、（ろうそく）もないのなかで妊がづく。栗原子さんの「生ましめん哉（かな）」である 大楼的地下室充满着血腥味和呻吟声.遭受原子弹毁灭的广岛之夜,在亦无烛光的黑暗中,有一位孕妇即将分娩.这是栗原子的诗歌（所写的）.私は婆（さんば）です、ませましようと、ひとりの重者が名り出る。やがて声がこえた。「かくてあかつきを待たず婆は血まみれのまま死んだ / 生ましめん哉 / 生ましめん哉 / 己（おの）が命つとも」 "我是助产士,我来为你接生吧",一名重伤员自告奋勇.不一会,传来了新生儿的哭声."于是/熬不到黎明/助产士在血泊中死去/我来为你接生吧/我来为你接生吧/哪怕将自己的生命舍弃" 赤ちゃんは女の子で「和子」と名づけられた。小和子さんはいま、息子さんと市内で食事と酒の店をんでおられる。生日は原爆投下の2日後、もうすぐ62になる 新生儿是名女婴,取名"和子".小和子如今和儿子一起在市内经营一间饮食店.她的生日是原子弹投在广岛的两天后,马上就要62岁了.亡き母は被爆体をほとんどらず、和子さんは高校に上がるまでのモデルであることを知らずにいた。「胎内被爆した娘が世から偏をもたれないように、という遣いだったのでしょうね」 已故的母亲几乎从不谈及遭受原子弹爆炸的经历,所以,和子直到上高中始终不知道自己是诗歌的原形."为了不让社会对胎内被炸的女儿怀有偏见母亲大概是出于

这样的顾虑吧" 店前の忙しい夕刻、和子さんは仕事の手を折やすめつつしてくれた。いまは栗原さんののが朗されると、生まれ出る身ではなく、地のような夜の底に命がけでんでくれた母の身になってくという。がとまらない、と黄昏、飲食店即将营业、十分繁忙、和子时而停下手中的活儿、和我说着话。据她说、现在每当有人朗读栗原的诗句、她就会把自己当成在地狱般的深夜拼着老命生下自己的母亲而不是作为降生于世的自己而倾听。不禁潸然泪下。一の光がの深さをえることもある。希望の晶ともいうべきひとつの生命から、おびただしい死者の望が浮かび上がることもある。地下室の声はいつまでも、言なきり部でありつづけるだろう。一缕光有时会反衬出黑暗之深、从一个可谓希望之结晶的生命、有时也会引发众多死者的绝望、地下室的婴儿哭声将永远成为无声的叙述者吧。100Test 下载频道开通，各类考试题目直接下载。详细请访问 www.100test.com